

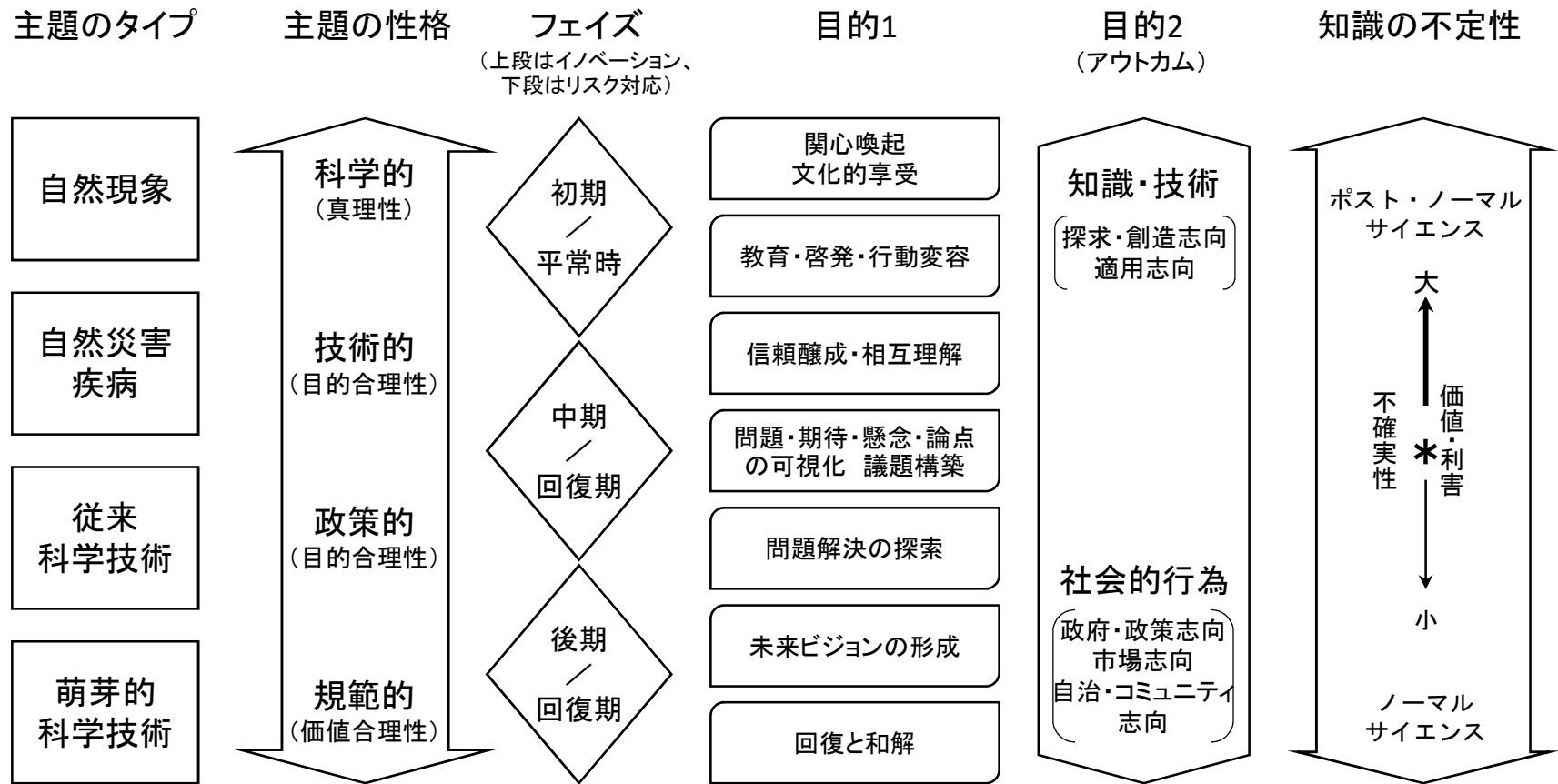
参考資料1
科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
安全・安心科学技術及び社会連携委員会
社会と科学技術イノベーションとの関係深化に
関わる推進方策の検討作業部会
(第2回) H27.5.18

科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
安全・安心科学技術及び社会連携委員会
社会と科学技術イノベーションとの関係深化に関わる推進方策の検討作業部会
(第1回) H27.5.8

科学技術の共創・共治における 対話・協働の分類枠組み

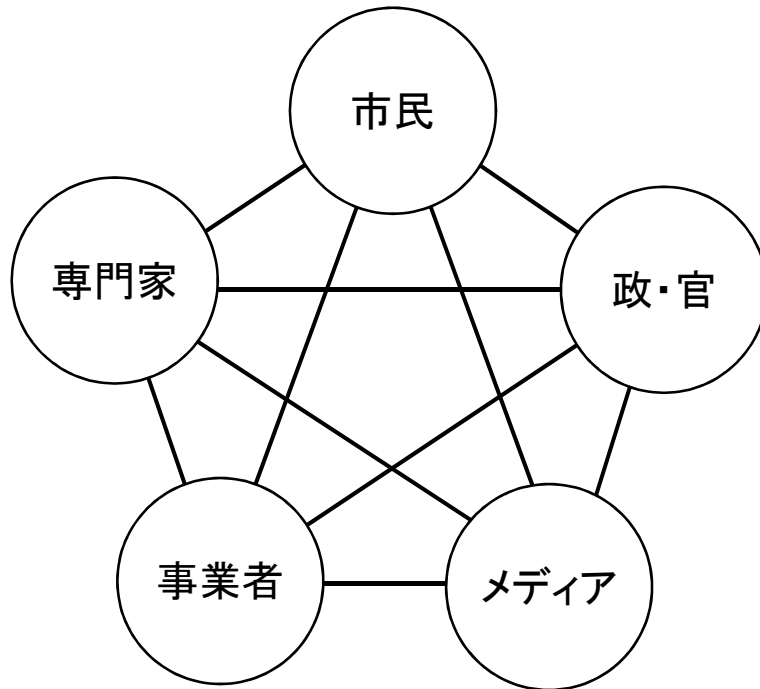
平川秀幸

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

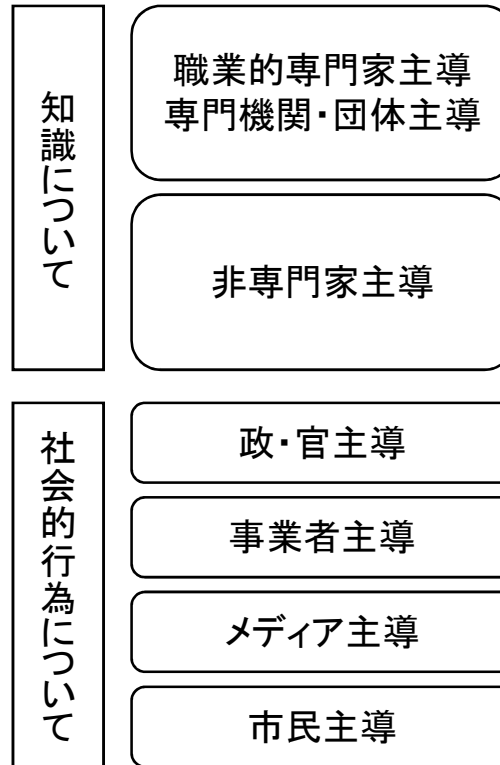


- 主題のタイプである程度、残りの分類軸のどこに当てはまるかはパターン化できると考えられる。
- そのパターンごとに、対話の成立に必要な要素のパッケージのバリエーションが特定できると考えられる。

対話の主体
(誰と誰か)



対話の主導的主体
(誰のイニシアティブ・関心か)



主体の規模



ポスト・ノーマルサイエンス(PNS)

ノーマルサイエンス=応用科学

(Normal science = applied science) :

既存の知識や方法論を適用することで問題を解決。不確実性や価値負荷性 (value-loadings) は日常の研究活動では無視しうる。

専門的コンサルタンシー

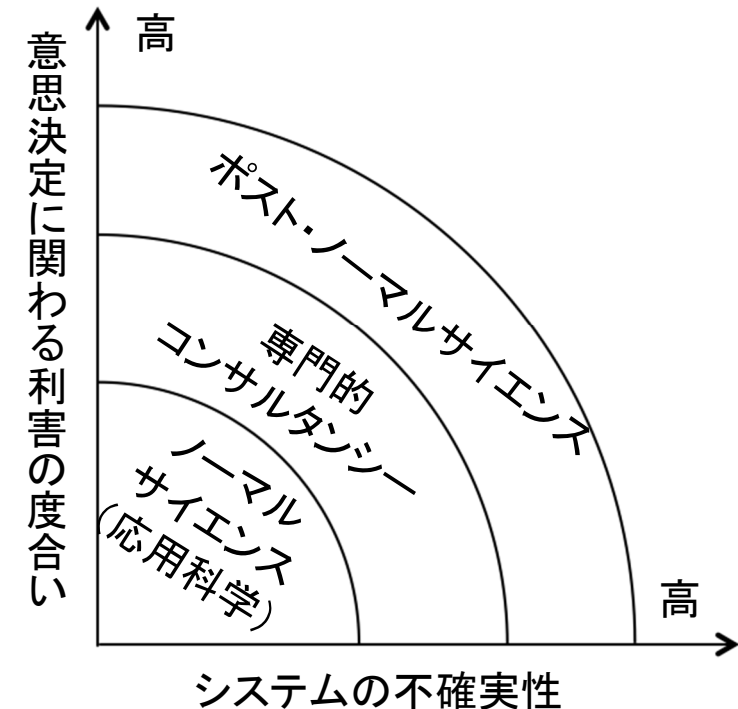
(Professional consultancy) :

エンジニアや外科医のような専門職が関わるもの。不確実性に対処するために、単に既存の知識の応用には還元できないスキルや専門的判断が必要となる科学の領域。誤りや失敗のコストが大きい。

ポスト・ノーマルサイエンス

(Post-normal science: PNS) :

事実の不確実性が高く、価値観や利害をめぐる論争が起きており、意思決定が急がれるような領域。



「意思決定に関わる利害や価値問題 (decision stakes)」の度合いと、対象とするシステムの「不確実性」の度合いによる分類